

表層ウェブ

深層ウェブ

プロ司書の 検索術

「本当に欲しかった情報」のを見つけ方 | 入矢玲子 著

まえがき——探すチカラを基礎から鍛える 3

第1章 こんな時代に情報のプロがなぜ必要?——検索概説

- 1 司書は深層ウェブに精通している 22
 - 重要なのは生活情報でなく専門情報 22
 - 表層ウェブは情報という氷山の一角 24
 - つながりよりもかたまりを探す 26
 - データベースにお気に入りをつくる 28
- 2 司書は検索のルートを豊富に知っている 29
 - 情報よりも情報源が大切 29
 - 混沌から厳密性だけをすくい取る 30
 - キーワードは二の矢、三の矢が面白い 31
 - いい検索は知識を改善する 33

- 人は自分の思い込みの中へ迷い込む 34
 - 記憶は記録ではない 35
- 3 司書は最も親切的な助言者である 37
 - カーネギーはなぜ司書活用に熱心だったのか 37
 - 未踏の分野は着想の宝庫 39
 - 見つからないのは存在しないからではない 40
 - 情報と「情」をいったん切り離す 41
- 4 司書の手もとには最新が常にある 43
 - 最大ではないが最高のデータベースは司書 43
 - 直感を本で磨いてウェブで生かす 45
 - 司書はスピードも提供する 46

第2章 基本はあらゆる本を探せること——本の検索

- 1 本の整理法を知ると頭が整理されてくる 50
 - 知りたいのか理解したいのかで調査対象は異なる 50

- 本の分類法NDCの簡潔な構造 52
- 目的の本と類書を一挙に集める 56
- ウェブと図書館の聡明な使い分け 57
- 書誌データにも落とし穴はある 58
- 2 定番サイトだけで本の大半は見つかる 59
 - 図書館のサイトOPAC 59
 - 国立情報学研究所のCinii、WebcatPlus 62
 - 国立国会図書館のオンライン、サーチ、デジタルコレクション 63
 - 便利なカーリル、ジャパンサーチ、ディスカバリーサービス 65
 - 順序よく当たって検索モレを減らす 66
 - 今ここにない本をILLで入手する 67
- 3 行き詰まったら何を変えるか 69
 - サイトのトリビアルールに対処する 69
 - 自分の覚え間違いにも対処する 72
 - たとえば文学作品の初出を探す時 73
 - 青空文庫をうまく使う 75

第3章 新聞・雑誌を発想の鍵の束に使う——記事と論文の検索

- 4 洋書探しを遅滞なく進める 77
 - タイトルの冠詞には注意する 77
 - ISBNによる一発検索を覚える 79
 - 翻訳書の有無を確かめる 80
 - 海外の図書館をサーチする 81
 - 有料データベースでとことん調べる 83
- 1 新聞検索で関心の限界を突破する 86
 - イモづる式で思考のバランスを保つ 86
 - メモで情報の「ツテ」を広げる 88
 - 新聞にも言葉グセは大いにある 89
 - キーワードを「ずらす」技術 91
- 2 今ここという枠を雑誌で取り払う 93
 - 雑誌検索と雑誌記事検索は別物 93

出番が多いのはCiniiArticles	94
世相をつかむには大宅壮一文庫雑誌記事索引	95
有料データベースを使い分ける	97
3 海外雑誌を着想の引き出しに加える	98
グーグルスカラーから入るのが王道	98
使いやすい一般的な定番サイト	99
利用可能な分野別データベースを調べる	101
論文のランキングがわかる二大サイト	102
電子ジャーナルについて心しておきたいこと	103
図書館の見えない恩恵に気づく	105

第4章 不慣れな分野を効率よく調べる——領域別の検索

1 武器になる統計を探す	108
公的統計と民間統計では入り口がまるで違う	108
e-Statは政府統計の総合窓口	110

2 人物情報で見識を高める	117
WhoPlusと日経テレコンが二大サイト	117
冊子体紳士録を併用する	120
手をかけるべき部分は、はしよらない	121
何を言うかよりも誰が言うかの時代	122
3 企業の実像を細大もらさずつかむ	124
日経テレコンが他を圧倒する	124
新聞・雑誌との組み合わせ検索が面白い	126
東洋経済とダイヤモンドのサイト	128
有価証券報告書で企業の深部を見る	128
公共図書館のビジネス支援活動を援用する	129
4 知識ゼロからの法情報検索	131

第5章 信頼できる情報だけを選びすぎる——信頼性の向上

- 1 学術情報は無愛想に見えても信用できる盟友
つい読みたくなる不正確なサイトを避ける 142
最初に性善説の国に行く 144
お堅いデータを魅力的にまとめる 145
- 5 わかりやすくして質の高い医学情報を探す 137
アウトラインの理解から始める 137
診療ガイドラインが役立つ 138
専門情報はMEDLINEと医中誌ウェブで 139
闘病記も読める患者図書館 140

- 1 論文と学術論文はどこが違うか 146
インパクトファクターと査読について 147
紀要と機関リポジトリを活用する 149
- 2 信じるために疑いの目で見る 151
信頼性も使用頻度も高い四つのドメイン 151
良書の多読で情報選択力を養う 153
「らしい」「だろう」は怪しさのシグナル 155
真偽の確認にはサイトとメディアを両方変える 156
ネットは本当に信頼されているか 157
なんとなく違和感がある時は調べる 159
- 3 確かな入り口を事典から見つける 160
ジャパンナレッジの全文検索を試す 160
欧米版併用でウィキペディアを安全に使う 161
新説は定説という土壌から芽生える 162
- 4 オリジナルな正しさを発信する 164
複数の視点をパッケージにする 164

引用形式を軽視しない 165
仮説はいいが推測は避ける 167

第6章 いいキーワードを次々と発想する——検索の質の向上

- 1 ひらめきの手順を身につける 170
ポイントは言葉を変える力 170
ベストは一つではない 171
キーボードからちよつと手を離そう 173
答えを探すには問いかける 174
- 2 キーワードをヨコ、タテ、ナナメに変えてみる 175
類語と表記揺れからも発想転換はできる 175
切り口を固定しない 178
一ページ目でスクロールを終えない 179
外国語はいつも発想の強い援軍 180
- 3 約束事を順守して効率を上げる 181

AND、OR、NOTを改めて覚える 181
フレーズ検索を巧みに織り込む 184
完全一致検索でノイズを減らす 186
検索に最も役立つキーはCtrl+F 188
キー操作を減らして生産性を上げる 189

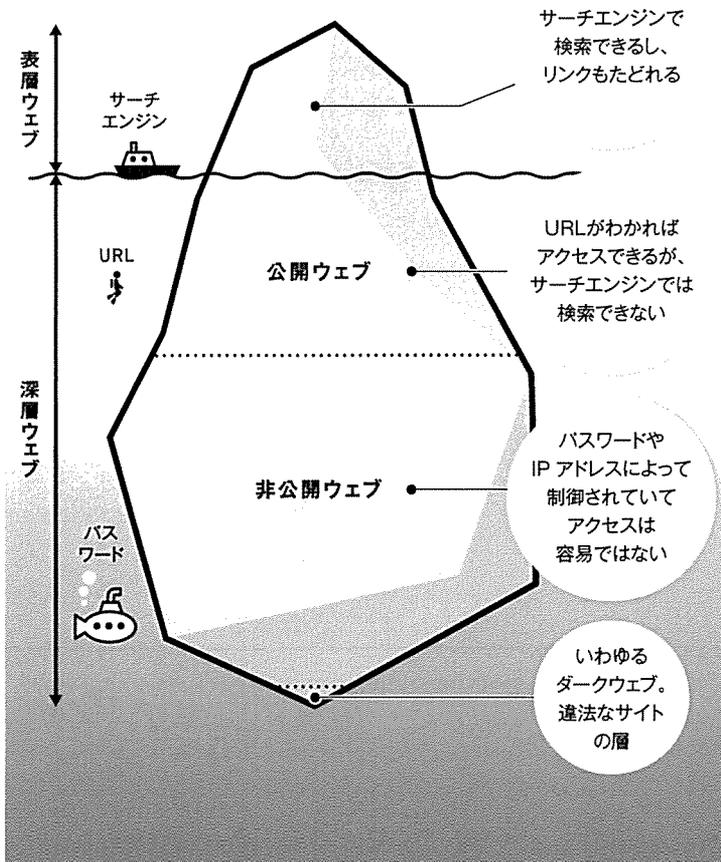
第7章 世界の視点で受信と発信を見直す——情報学ガイド

- 1 日本は「情報貧国」へと失速しているのか 192
自分の論文を読むと課金される？ 192
買った情報が勝手に消される 194
危険を担保するデータアーカイブ 195
資本の論理から情報を自由にする 196
衝突からオープンアクセスによる共存へ 197
自由の対価は安くない 198
日本の論文流出が止まらない 199

新しい著作権ルールCCを知っておく	201
2 図書館をビジネス化していいのか	202
無償支援は長期的な価値をもたらす	202
情報の平等が健全な競争の土台	203
「世界図書館」の夢と毒	204
図書館は社会的共通資本	206
図書館の未来機能を育てる	207
3 ブチ図書館史が教える大切なこと	209
写本時代1 アレクサンドリア図書館と修道院	209
写本時代2 大学図書館の登場	210
印刷時代1 グーテンベルクから産業革命まで	211
印刷時代2 公共図書館と国家の発展	212
情報が猛烈につながり始める	213
図書館がつながりのハブになる	214
4 図書館はイノベーション基地になっていく	216
イノベーションに必要なのは人が交錯する場	216

図書館は人とコトをつなごうとしている	217
課題は人的資産の確保	218
自分の「かかりつけ司書」を見つける	220
5 情報リテラシーは人生をアップデートする	221
情報リテラシーとは何か	221
情報のスキルアップは小中学校から	222
図書館が情報リテラシーを教えるのが実際の	224
問題解決能力としての情報リテラシー	225
「われわれは情報を見ずごしているのである」	226
あとがき	228
情報検索・図書館をもっと知りたい人のために	232
引用・参考文献	237
索引	241

図1 表層ウェブと深層ウェブ



1 司書は深層ウェブに精通している

▼重要なのは生活情報でなく専門情報

「その情報は深層ウェブにあるので、グーグルではアクセスできません」「えっ？」

大学図書館のレファレンスカウンターで、最近こんなやりとりが増えています。

困り顔でスマホの画面を見せながら「欲しい論文のタイトルはグーグルで探せたんですが、肝心の全文情報にアクセスできないんです」といった相談にくる学生が多くなったためです。

デジタルネイティブ世代のはずなのに、手元の検索エンジンで探せなければ、そこでもうお手上げになってしまうのはなぜでしょうか。

事情は推察できます。一般的な学生生活は、スマホとグーグル（以下ヤフーやビングなどの検索エンジン全体をグーグルとも呼びます）だけで検索できる日常的情報の範囲でほぼ足りません。そのため、研究やビジネスに使える専門的な情報（以下「生活情報」「専門情報」と

ざっくり言い分けてしまいます)にも、グーグルからリンクをたどって簡単に行けると錯覚してしまうのでしょうか。

そこで、「表層ウェブ」「深層ウェブ」という概念によって情報の構造をまず知ってもらおうです。それが検索力改革のスタートになります。

▼表層ウェブは情報という氷山の一角

ウェブ情報の巨大な世界は、前ページのような氷山の形にイメージすることができます。

【表層ウェブ】

サーチエンジンで簡単に検索でき、リンクもたどれる情報です。

生活情報のほほすべてがここにありますが、しかし、ウェブ情報全体からすれば、ごく一部分にすぎません。

【深層ウェブ】

原則的にサーチエンジンでは検索できず、リンクもたどれない情報です。

URLがわかればアクセスできる「公開ウェブ」と、パスワードやIPアドレス(104ページ参照)によって制御されている「非公開ウェブ」に分かれます。いずれも、探し方を知らないと探せないことで共通しています。専門情報やデータベースのほとんどが、ここにあります。

表層と深層の比率には諸説ありますが、情報の七〇九割が深層ウェブにあることは衆目の一致するところですよ。

「インターネットにない情報は、この世に存在しないと思う学生が多い」とよく揶揄されるのは、存在するのに探せていない情報があるだけの話なのです。

サーチエンジンは検索のつどウェブページを探すものではありません。クローラと呼ばれる大量のロボットがウェブを定期的に巡回し、情報をクローラ(自動収集)して、それを検索するのです。

クローラの収集できるサイトが、表層ウェブを形成します。一方、アクセスが制限されている情報やクローラを拒否する情報は収集できず、深層ウェブと呼ばれるわけです。

なお、深層ウェブの最下層には、私たちとは無縁の違法な「ダークウェブ」があります。

グーグル一本槍の検索で手詰まりになった学生に、私は以上のことを手短かに伝えたあと、こう話します。

「では一緒に検索しながら、データベースの使い方や、キーワードの発想法を覚えましょう。検索はコツをつかめばどんどん精度が上がります。同時に『あつ、こんな関連情報があった。』

著者略歴

入矢 玲子 (いりや・れいこ)

1978年、大阪外国語大学(現大阪大学)イスパニア語学科卒。同年から中央大学職員として図書館に勤務。同大学図書館事務部レファレンス・情報リテラシー担当副部長を務める。

1991年～92年、米国イリノイ大学モートンソンセンター日本人初フェローとして派遣され、同大学商学部客員研究員、日本関係レファレンスサービスなどを担当。1996年～2004年、日本図書館協会「日本の参考図書」編纂委員。

著書に『日本の参考図書』(共著、日本図書館協会、2002年)、論文に『「図書館文化」の継承を』(朝日新聞 2006年 2月 15日)、エッセイに『ある司書の旧姓使用奮闘記』(中央評論 300号、2017年 9月) などがある。

<図書館サポートフォーラムシリーズ>

プロ司書の検索術

—「本当に欲しかった情報」の見つけ方

2020年10月25日 第1刷発行

著 者 / 入矢玲子

発 行 者 / 山下浩

発 行 / 日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <http://www.nichigai.co.jp/>

組版処理 / 有限会社デジタル工房

印刷・製本 / 株式会社平河工業社

©Reiko IRIYA 2020

不許複製・禁無断転載

<落丁・乱丁本はお取り替えいたします>

(中性紙三差クリームエレグ使用)

ISBN978-4-8169-2851-2

Printed in Japan, 2020